

管理所レビュー VOL.03

(R1.5.15 水源林管理所)

今年度の第3回となるボランティア活動が、5月8日(水)に予定どおり実施されました。

今回も絶好の天候に恵まれ、すがすがしい青空の下、安全に間伐作業を実施することが出来ました。皆様、大変お疲れ様でした。

これからの季節は気温の上昇とともに、ハチやブヨ、蚊、マダニなどの虫が活動を始めます。虫よけの準備など、ご自身で出来る対策をしてお参加ください。

それでは、安全活動のための水源林管理所の振り返りなどをお知らせします。

1 60名のご参加、ありがとうございます！



快晴、絶好の間伐日和。



首の準備運動もしっかりと。



いってらっしゃ〜い！

2 不安定な状態にある材の玉切りについて

傾斜地における伐倒時、地形などの影響により、伐倒木の先端や根元が不安定な浮いた状態となる場合があります。そのような状態での玉切り作業は、危険ですので十分注意してください。

(1) 材が不安定な状態にある事が危険要因です。

まず、材の状態をよく観察し、安全に次の作業に取り掛かれるよう、どこを玉切れば材が安定するかを考え、玉切る箇所を決定してください。

(2) 玉切り作業を行う時は、必ず斜面上部に立ち、足を材の下に入れないようにしてください。

(3) 材の安定が確保できてから、枝払いや次の玉切り作業に取り掛かるようにしてください。また、同時に2人以上で、同一の材を玉切る時は、安全に十分注意し、ノコギリの挟まれなどが起きないように、声かけやサポートをしてください。



不安定な状態の材。

3 野生生物から身を守りましょう！

道志村は自然豊かであるがゆえに、さまざまな生物が生息しています。

特にこれからの時期は、ハチやブヨ、蚊、マダニなどの虫たちが活動を始めるので、身を守る対策を行いましょう。

【対策】

- ① 長袖、長ズボンを着用し、皮膚の露出をさげ、袖や裾・襟首もしっかり締める。
- ② 虫よけスプレーを使用する。
- ③ 休憩中などは敷物等を用いて直接地面に腰を下ろさない。
- ④ ハチやハチの巣を見つけたら、決して近づかない。



4 伐倒方向について

今回の活動において、直径約 20 cm のスギを下方方向へ伐倒した際、伐倒木が約 10m にわたり地面を滑り落ちました。

重量のある伐倒木が大きく移動する状況は、予期せぬ危険を招き事故の原因となりますので、伐倒方向の選定について、今一度確認をしてください。



【伐倒方向の選定】

- 伐倒方向は、伐倒する立木の状態、隣接木の状況、地形、伐倒後の作業の安全性、材を損傷させない事などを考慮して、安全で確実に倒せる方向を選定してください。

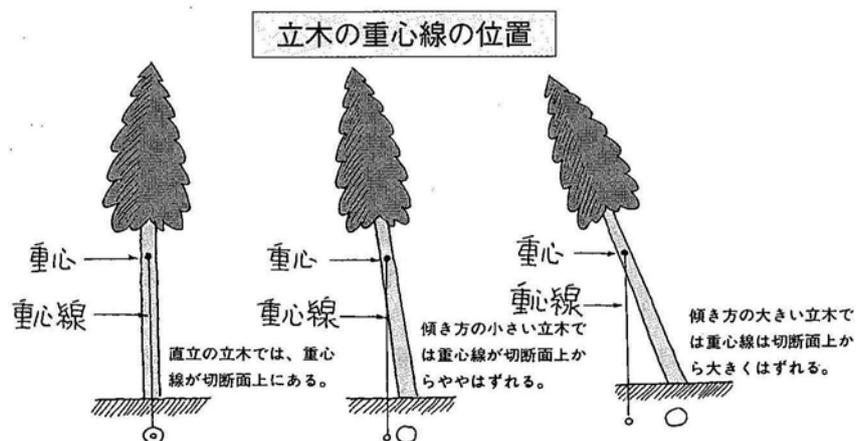
(1) 立木の重心線の見極め

立木の傾き、曲がり、枝の張り具合など、立木の状態から重心の位置を判断して伐倒方向を選択します。

重心の位置の判断は、安全に伐倒するための準備作業の中で大変重要になります。

(2) 隣接木などの影響による伐倒方向の変化やはね返りの見極め

隣接木との枝がらみ・つるがらみの有無とその状態、伐倒方向の障害物の有無と伐倒方向の変化、はね返りの可能性などを判断して伐倒方向の選択をします。

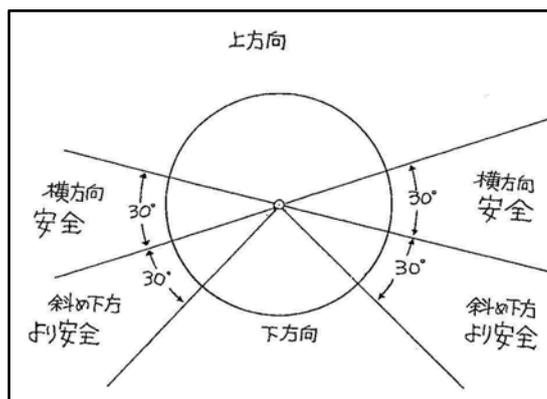


- 伐倒方向は、一般的には、斜面の横方向か斜め下方方向を選定してください。

(1) 横方向への伐倒は、伐倒した材の安定が良く、伐倒後の作業が容易で安全です。立木の重心を移動させて伐倒する事が多いので、正確な受け口と追い口作りが重要になります。

(2) 斜め下方方向への伐倒は、重心の方向に近い方向へ伐倒する事が多く、比較的作業は容易です。

(3) 重心が谷側にある立木を下方方向に倒すのは容易ですが、伐倒時の速度が最も大きくなるため、伐倒木が滑り落ちたり、衝撃で幹や枝が折れる場合があるため危険です。更に、伐倒後の作業（枝払いや玉切り）が危険な上下作業となりやすいので、十分な注意が必要です。



「伐木造材作業者必携より一部抜粋」

- ★ 周囲の状況により、やむを得ず伐倒方向を下方方向に選定しなければならない場合は、伐倒時の速度を調整するため、切り残し（つる）を少し厚めに残した状態で倒すようにしてください。

※ 5月18日（土）は、晴れのち曇り、最高気温 20 度、降水確率 40% の予報となっています。

★それでは5月18日、気をつけてお越しください。